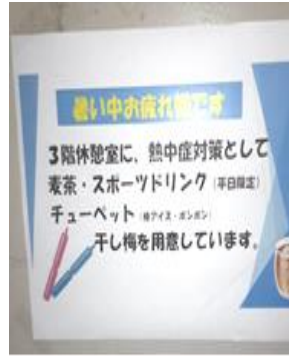


未来

郵政産業ユニオン
PIWO
全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 4275
22年8月16日(火)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

熱中症対策 会社全体での改善を求める

送が遅れた事例が含まれていると発表。
このため、すべての職場において事業者は、初期症状の把握から緊急時の対応までの体制整備を図ることなど、重点的な対策の徹底を図ることとしています。



先日の「7月期の定例窓口」報告でもお知らせしたように、長中局ではウォーターサーバーの設置に加え、3階休憩室に飲料コーナーを設けるなど多くの熱中症対策を行っています。

厚生労働省は、昨年1年間の職場における熱中症の発生状況で、死亡を含む休業4日以上の死傷者561人、うち死亡者は20人。「休ませて様子を見ていたところ容態が急変した」、「倒れているところを発見された」など、管理が適切になされず、被災者の救急搬送が遅れた事例が含まれていると発表。

冷却ファン付きウェア
工事関係者や交通誘導員が着用していることを見かけるのが多くなりました。
このファン付きウェア、先月からは長崎東局で試行実施されています。昨年、さいたま新都心局などで施行導入されたのに続く試行で、今回は長崎東の他、広島中央や銀座など全国20局ほどで導入されています。



広中局では5つある集配営業部に、各3着計15着配備。長崎東でも15着。どちらも、ある程度使用する社員を固定しているとのことでした。

また説明では昨年の施行を踏まえ今回は、
① 会社ロゴの印字、ウェアカラーの指定、② 反射材の一体化、③ ペン挿し、社員証掲出用ポケット(胸ポケット)の新設

④ 服の外側から電源および風量を操作可能となるよう腰ポケットの形状を改良した製品で試行を実施しているそうです。



使用した社員からは冷却効果は高い、一度使用するとこれ無しでは配達に行けないという声も聞かれます。

ただ使用可能時間が短く、バッテリーを取り換えなければ一日持たないという事で、希望者全員に貸与した場合、充電用電源確保が課題となりそうです。

またバッテリーなど一式で1万5千円ほどする等、課題も多いと思われるますが、早期の全国展開を求めます。

集配用キャップ

会社のキャップは長年改善されていません。最近では反射素材や水でぬらすと冷却効果がある素材の使用に加え、後ろ首が焼けにくいようにフラップが付いたものなど熱中症

対策としてのキャップが多くあります。配達員が被りたくなるようなキャップへの更改を求めます。

ユニフォーム着用

最近「シャツをズボンの中にインするか、アウトにするか」のニュースを目にします。シャツをアウトにすると、インの場合に比べ体表温度が3〜4度下がったとも報じられました。

会社の基準では「シャツはイン」ですが、昨今の災害的酷暑の状況を踏まえれば、クールビズの期間は「シャツはアウト」でも構わないと思います。



ユニフォームのポロシャツは「アウト」でも、だらしなく見えませんよ。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員と希望者全員の正社員化を。ゆげが、均等待遇、なげんご差別。ユニオンは労基法裁判に勝利したぞー！

